

そもそも

連句とは？

●五七五の句の後に七七の句を、この七七に五七五というように、交互に付けていき、三十六句（歌仙）、五十句（五十韻）、百句（百韻）等があります。

●連句は会話と同じように、集まった人たちが前の句を受けて、応対して返すを連々と続けていくものです。

●良い作品を作るためには、「**自由な発想**」**「皆とともに」**という**気持ちが必要**です。何人かで作品を作っていくので、他のメンバーの言葉の考え方や知識に影響を受け、**発想の広がりを感じる**ことのできる**文芸**です。

前句付け

って？

●前句付けとは、お題として出された「前句（カマ）」の後に、想像力を働かせて、「付け句（五七五）」を付ける、**自由な発想を旨とする連句のエッセンスがぎゅっ**とつまった、気軽に楽しんでいただける言葉の遊びです。

●前句は、七七という短い言葉ですが、読むことによって驚くほど多彩なイメージが引き出されることでしょう。その自分ならではのイメージを大胆に、または、繊細に膨らませて付け句を考えてください。

前句付けを

してみよう。

●付け句を考えるとときには、まず前句をよく読み込みその句のイメージを描き、その句の字面で表わされていないものを補うと、いうことを考えます。

●考えるヒントとして次のようなことがあげられます。

前句「いけず言わんと 早うおしやす」を例にしてみよう……

●どんな人が言っているのか？

代々の 貫禄いつか 身につけて

↓迫力のあるお姉さんでしょうか。そういうえば母親の若いころにそっくりです。

痛性の 青筋額に おったてて

↓怒りっぽい父親でしょうか。すぐに青筋をたててしまいます。

紹^ろの羽織 身にゆつたりと 着こなして

↓こういう粋なひとが言うと言力あります。

●誰に言っているのか？

口癖の 「だつて」を喉に 押し込んで

↓なかなか反論しにくい相手もいますね。

はいはいの 返事に動作 追いつかず

↓いつもの夫婦のやりとり。返事してはみたものの、なかなか腰が上がりません。

●どうで言っているのか？

盛り塩の 白さ際立つ 表口

↓出がけに小言を言われ、慌てて出かけました。

配膳の 準備整う 板場なる

↓板前さんと仲居さんのやりとり。忙しいから皆イライラ。

●季節はいつなのか？

ちらちらと 又降り出した 今日空

↓また雪になりそう、春よ来いと空に呼びかけてみました。

●時間はいつ頃か？

軒灯の 明りがほのと 夕まぐれ

↓夕ご飯どきの夫婦げんか、どちらかが折れるまではご飯はおあずけ。

なぞなぞ……自由に発想してみてください。